

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) 事業効果検証シート
(R5年度事業分)

No.	1	担当課	定住対策課定住対策係
-----	---	-----	------------

交付対象事業名	持続可能なまちづくりのための地域活力向上にぎわい創生プロジェクト				
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出	事業費	計画額(円)	5,300,000	
	③人と人、人と地域との結びつきの形成		実績額(円)	5,234,300	
事業概要	地域内外の人のつながりを生み出す電子地域通貨プラットフォームの仕組みを通して、八女市への新しいひとの流れをつくり、継続的に多様な形で関わる関係人口を創出・拡大させる。また、人と人とのつながりを深めた地域社会資本を元手に地域経済資本や地域環境資本を増やしていき、だれもが多様な才能を発揮できる持続可能な地域社会構造への移行を目指す。				
活動内容	<p>過去3カ年のコンサルタントで運用支援、プロモーション及び地域循環促進といった部分のノウハウが蓄積され、ユーザー数や加盟店もある程度伸びてきた。令和5年度は、加盟店がコミュニティ通貨を利用した魅力的な体験の充実を図ることで持続的な仕組みにする必要があるため、加盟店へのサポートを強化し企画を実施した。</p> <p>①コミュニティ通貨システム利用料 ②コミュニティ通貨プロモーション関連業務 ・システム基本使用料 ・コミュニティ通貨活性化促進(利用者拡大のためのツール等の製作) ・イベント等にかかる諸経費(出店経費、チラシ等) ③関係人口創出拠点施設運営 ・施設活用企画運営 ・運営人件費</p>				
主な成果	令和5年度は加盟店に魅力的な体験の充実を図ることがテーマであったため、人員を新たに配置し、各加盟店への訪問や共同企画の実施を実施することでまちのコインの利用件数やユーザーの新規獲得につながった。また、関係人口創出拠点「つながるバス停」では、チャレンジショップやミニイベント企画等を実施し利用促進を図ったほか、各加盟店の課題を解決するツールとして西鉄バスや堀川バスとのコラボ事業や、加盟店に加えて福島高校や山口大学といった産学共同事業等により関係人口の創出を図った。 このような取組により、令和5年度はKPI目標を達成し、八女市への新しいひとの流れをつくり、関係人口を創出・拡大につなげることが出来た。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R5年度)	実績値(R5年度)	説明
	アプリ内チケット利用回数(回)	0	20,100	39,613	企画実施を行い積極的にプロジェクトを実施したことに加え体験内容の充実を図ったことにより体験数も増加。
	地域外ユーザーのチケット利用回数(回)	0	600	7,744	イベントでのPRによって、多くの地域外ユーザーが利用された。
	コミュニティ通貨を活用したプロジェクト実施数(回)	0	46	47	企画実施を行い積極的にプロジェクトを実施した。
	コミュニティ通貨利用者の起業数(人)	0	4	6	地域おこし協力隊の起業、その他まちのコインのユーザーの中から起業があった。
取組の検証	事業効果	②本事業は地方創生に相当程度効果があった			
	課題・改善点	令和4年度の取組検証で「各加盟店が作成するまちのコイン体験の充実する。」旨総括しており、それを踏まえて令和5年度は加盟店訪問を強化し体験の充実を図った。また、加盟店の課題を体験やイベントに反映することで効果的な関係人口創出の取り組みができたと感じている。 しかし、今後はコミュニティ通貨の更なる持続的発展に向けて民間(公共的団体)による運営移行を目指しノウハウを伴走・共有する必要があると考えている。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	加盟店が自ら体験を想像し企画できるようにサポートを行い、魅力的なまちのコイン体験を量産していくことで確実な関係人口の創出につなげたい。 また、持続的な仕組みになるように民間による運営体制の移行を目指し、関係人口のみならず様々な地域活性化のためのツールとして発展するように事業を執行していく。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	・関係人口創出の観点で有効な取組みであるが、定住効果・経済効果までつながるよう指標等把握いただきたい。 ・今後の継続性の観点から企画を仕掛ける事業者に対してもメリットを考えていく必要があるのではないか。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

No.1 地方創生推進タイプ（定住対策課定住対策係）

持続可能なまちづくりのための地域活力向上にぎわい創生プロジェクト事業【福岡県・八女市】

計画概要

地域内外の人のつながりを生み出す電子地域通貨プラットフォームの仕組みを通して、八女市への新しいひとの流れをつくり、継続的に多様な形で関わる関係人口を創出・拡大させる。また、人と人とのつながりを深めた地域社会資本を元手に地域経済資本や地域環境資本を増やしていき、だれもが多様な才能を発揮できる持続可能な地域社会構造への移行を目指す。

事業の目標

当事業は、電子地域通貨プラットフォームの仕組みを通して、地域内の多様な人材が地域活動に関わり、地域外からの関係人口を創出・拡大し、多様な人材が活躍する地域社会構造への移行を目指すことで、地域活力の向上とにぎわいを生み出すことを目的としている。

関係人口

階段を上がるごとに
関心・関与の度合いが増える

拠点を持つ

交流する
何か手伝う

通う

ファンになる

興味を持つ

移住・定住

人と人のつながりが
やがて住みたい街になる



事業の成果

加盟店に魅力的な体験の充実を図るために人員を新たに配置し、各加盟店への訪問や共同企画を実施することでまちのコインの利用件数やユーザーの新規獲得につながった。また、関係人口創出拠点「つながるバス停」では、チャレンジショップ企画等を実施し利用促進を図ったほか、各加盟店の課題を解決するツールとして関係人口の創出を図った。

KPI	R5目標値	R5実績値
アプリ利用者数	—	7,288人
スポット数	—	280件
アプリ内チケット利用回数※	20,100回	39,613回
地域外ユーザーのチケット利用回数※	600回	7,744回
コミュニティ通貨を活用したプロジェクト実施数※	46回	47回
コミュニティ通貨利用者の起業数※	4人	6人

※印は、地方創生推進交付金の事業計画に掲載しているKPI

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) 事業効果検証シート
(R5年度事業分)

No.	2
-----	---

担当課	企画政策課企画政策係
-----	------------

交付対象事業名	地域資源を活用した持続可能な八女市ブランド構築事業				
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出	事業費	計画額(円)	17,417,000	
	②持続可能な観光事業の推進と観光施設の整備		実績額(円)	17,417,000	
事業概要	八女市ブランドの構築・共有が出来ていない、情報発信における地域住民の参画がなされていない、若年層への訴求が不足しているという課題を解決するため、戦略を立てたうえで、分野横断的な情報発信を行っていく。				
活動内容	<p>八女市のブランディングに関する全体の戦略を策定し、情報共有・意識の統一を図る。また、キックオフとして八女茶600年の節目のタイミングをとらえ、若年層に訴求力のある人物を起用した電子雑誌・パンフレットを作成し、スタートアッププロモーションを行う。</p> <p>・八女市シティプロモーション戦略の策定・住民参加型魅力発信事業の実施 ・若年層に向けた八女市の観光・農産物・文化・ふるさと納税・移住定住情報による「八女ブランド」のプロモーション 電子雑誌の制作・発信 パンフレット(紙媒体)の制作・配布</p>				
主な成果	<p>・観光・移住を中心にプロモーションの課題を分析し、Webや広報媒体の活用方法を含めた「八女市シティプロモーション戦略」をまとめた。また、メディアの特性を踏まえた情報発信の方法を学ぶ魅力発信セミナーを実施した。</p> <p>・若年層を中心に訴求力の高いタレント伊原六花氏を起用し、八女市の観光・特産品・歴史など分野横断的に八女市の魅力を掲載した「旅色」パンフレットを20,000部作成し、福岡・大阪・東京などの都市圏を中心に施設配架・イベントでの配布を行った。また、電子雑誌としてWeb上での発信を行い、令和5年7月～令和6年1月の半年間で213,885PVを得た。また、プレスリリース等による各社のSNSやタレント本人のSNSにより、合計294,954件のインプレッションを得た。</p>				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R5年度)	実績値(R5年度)	説明
	八女市の観光入込客数(千人)	1,047	1,147	1,885	コロナ禍が終息し、八女市への入込客数が増加している。
	八女市の全国魅力度ランキング(位)	341	331	307	各種取り組みの結果、ランキング上昇を見せている。
	八女市の20代・30代の転入者数(人/年)	1,073	1,103	1,736	外国人を含め、コロナ禍が終息し転入者が増加している。
	魅力発信隊員(市民ライター)による記事発信件数(件)	0	30	0	持続的な発信体制の構築には至っていないため
取組の検証	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった			
	課題・改善点	シティプロモーション戦略のなかで観光サイトのあり方など、課題が見えてきたところであるが、改修費用など調整が必要な点も多くあるため、今後事業課と協議を進めたい。令和5年度に住民参加型魅力発信の体制を整えることが出来なかったため、今後自走可能な形での実施に向け、準備を進める。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	令和6年度には、電子雑誌等によるプロモーションや魅力発信セミナーは継続しつつ、シティプロモーション戦略の具体的展開として、より市民に伝わりやすい広報とするため八女市広報基本方針を作成し、紙面の全面リニューアルを図る。また、都市圏の若年層をターゲットに、福岡市役所前で八女市の伝統工芸や特産品・ステージイベントを盛り込んだPRイベントを開催する。加えて、八女市出身のタレントを起用しプロモーション動画を作成する。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	・若年層の女性へターゲットした取り組みとして効果的と思われる。 ・今後もインフルエンサーの人等に情報発信を自分達でやっていってもらうのが一番理想的ではないか。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

地域資源を活用した持続可能な八女市ブランド構築事業【福岡県・八女市】

事業の目的

八女市ブランドの構築・共有が出来ていない、情報発信における地域住民の参画がなされていない、若年層への訴求が不足しているという課題を解決するため、戦略を立てたうえで、分野横断的な情報発信を行っていく。

事業の概要

- 八女市のブランディングに関する全体の戦略を策定し、各ステークホルダーで情報共有・意識の統一を図る。また、キックオフとして八女茶600年の節目のタイミングをとらえ、若年層に訴求力のある人物を起用した電子雑誌・動画・パンフレットを作成し、スタートアッププロモーションを行う。

- 八女市シティプロモーション戦略の策定・住民参加型魅力発信事業の実施

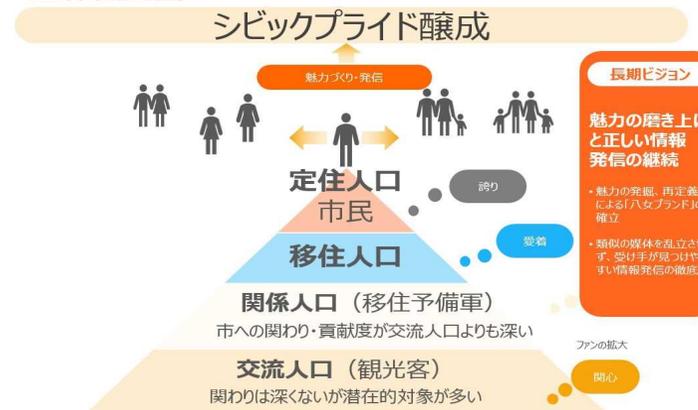
- 若年層に向けた八女市の観光・農産物・文化・ふるさと納税・移住定住情報による「八女ブランド」のプロモーション

電子雑誌・動画の制作・発信

パンフレット（紙媒体）の制作・配布

KPI	R5目標値	R5実績値
八女市の観光入込客数	1,147千人	1,885千人
八女市の全国魅力度ランキング	331位	307位
八女市の20代・30代の転入者数	1,103人/年	1,736人/年
市民による記事発信件数	30件	0件

全体概念図



デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) 事業効果検証シート
(R5年度事業分)

No.	3
-----	---

担当課	観光振興課観光振興係
-----	------------

交付対象事業名	魅力ある地域づくりによる移住・定住促進事業(福岡ソフトバンクホークスファームを核とした関係人口の創出拡大事業)				
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出	事業費	計画額(円)	358,000	
	③人と人、人と地域との結びつきの形成		実績額(円)	358,000	
事業概要	福岡ソフトバンクホークス・ファーム本拠地のタマホームスタジアム筑後ならびに筑後船小屋駅を活用した筑後七国の活性化を図る。 ・自然災害やコロナ禍により、人々の地方への移住・定住の意識が高まっている、この機を捉え、新たな移住者層の掘り起こしを行い、関係人口の創出・拡大に取り組むとともに、東京圏など大都市圏からの移住希望者への積極的な誘致をはかる。 ・地域コミュニティを維持する持続可能な地域づくりを地域一帯で進めるとともに、交流事業などを通して地域の魅力向上をはかる。				
活動内容	1.ソフトバンクホークス連携事業 (1)球場内PRイベント「筑後七国デー」開催(2)野球観戦チケットの配布(3)中学生野球教室 2.観光情報発信事業 (1)筑後七国ふるさとwish(KBC)(2)アサデスアプリ スタンプラリー実施(3)webサイト「筑後七国よかとこ巡り旅」(4)県外観光PR事業(広島市) 3.観光促進事業 (1)観光ボランティアガイド研修(2)筑後船小屋観光案内所活用(3)サイクルツーリズム事業 4.調査研究事業 (1)インバウンド推進事業の調査研究 5.筑後船小屋駅内情報発信事業 6.JR要望活動事業				
主な成果	1-(3) 中学生野球教室 市内全中学校の生徒が参加 2-(5)アサデスアプリ スタンプラリー 総参加者数2,304人 3-(1)観光ガイド研修 7自治体の観光協会、ガイドの会、商工会議所などが参加 3-(3) サイクルツーリズム事業 みやま市、大木市のモデルルート策定				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R5年度)	実績値(R5年度)	説明
	福岡から東京圏への転出超過数(人)	-6,179	453	-1,166	コロナ禍で地方移住が増加していたが、5類感染症に移行し、都市圏への転出に転じたため ※目標値、実績値はいずれも1年度での増減数
		0			
取組の検証	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった			
	課題・改善点	KBCとタイアップした番組やスタンプラリーへの反響が大きく、メディアと組んだ企画は次年度も継続したい。また各自治体のコンテンツやサイクルルートが大方完成したため、5年度に導入開始したシェアサイクル導入を現状の3市(八女市・筑後市・柳川市)以外にも広げたい。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	引き続き協議会事業で、筑後への観光誘客やエリア内在住者に向けた事業を行い、地域活性化に向けた取り組みを進めたい。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	・KPIが県全体を対象とするものになっているため、八女市での効果を評価することが困難である。 ・サイクルツーリズムのモデルルートに八女市を含んだルートを作っていただきたい。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

福岡ソフトバンクホークスファームを核とした関係人口の創出拡大事業【福岡県・八女市】

事業の概要

JR筑後船小屋駅と福岡ソフトバンクホークスファーム球場を核とし、筑後エリアの7自治体(八女市、筑後市、柳川市、みやま市、大川市、大木町、広川町)および福岡県、商工連合会、JR筑後船小屋駅、ソフトバンクホークスが連携し、観光情報発信やイベント実施、調査事業、地域密着型事業など、観光誘客だけでなく、域内在住者が地域へ愛着を持って暮らすことができるような取り組みを展開した。

活動内容

- ソフトバンクホークス連携事業
筑後七国デー開催、中学生野球教室
野球観戦チケットの配布
- 観光情報発信事業
KBCとタイアップした番組放映、スタンプラリー実施
- 観光促進事業
観光ガイド研修、サイクルツーリズム事業
- 調査研究事業
インバウンド対応研修
- その他
JR筑後船小屋駅での情報発信

事業の成果

元プロ選手を講師に市内全中学校の生徒を対象に行った野球教室では、生徒が活発に講師に質問するなど終始盛況であった。普段関わることのない市外の中学生との交流の場ともなっているため、継続的な実施を検討したい。

地元テレビ局のKBCとタイアップした番組「ふるさとwish」では地域の産物やイベントなどを1週間を通して放映。市内外からの観光誘客につながった。アサデスアプリと連携したスタンプラリーでは2,304名が参加。前年度の1,354名を上回る好結果であった。

交付金事業は令和5年度までとなるが、引き続き筑後七国活性化協議会事業として自治体間の連携した取り組みは継続していく。



筑後七国デー(9月2日)



KBCふるさとwish
(2月12~18日)

令和5年度 KPI	目標値	実績値
福岡から東京圏への転出超過数(人)	453	-1,166
【参考指標】※データは八女市のみ		
リピート率	80%	78%
観光客満足度	90%	91%
観光消費額	3,600百万円	3,022百万円
延べ宿泊者数	180千人泊	129千人泊

No.4 地方創生拠点整備タイプ（観光振興課）

地域連携型持続可能な観光拠点整備事業 ～八女ドリンクツーリズム創出～ 【福岡県・八女市】

事業の概要

地域に点在する施設・豊かな自然・そこで生活する人々を連携させることを目的に持続可能な観光拠点（べんがら村）の整備を実施する。今回整備するべんがら村を都市との交流の入り口と位置づけ、八女観光の拠点とするために増設する新棟や屋外スペースでの農産物の直売や観光PRブースを設置することでファミリー層向けの観光客をターゲットとした施設整備とする。また、本施設の特徴であるクラフトビールの醸造体験、八女茶や日本酒をはじめ多彩な農作物を掛け合わせたドリンクツーリズムを展開することで交流人口の創出を目指す。

事業の目標

- 地域資源を活かした観光ツアー商品開発による交流人口の増
- 八女ブランド農産物の直売システム、加工による農業所得の増
- 情報発信（観光と食）による都市住民との共生・対流の増

事業の成果

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」に移行されたが、年間観光入込客数および施設利用者数は目標には届かなかった。しかし、イベント等における連携事業者数については、市内だけではなく市外も含め多くの事業者と連携を図ることができた。

KPI	R5目標値	R5実績値
八女市の年間観光入込客数(人)	2,463,000	1,884,800
イベント等における連携事業者数(人)	15	210
施設利用者数(人)	622,922	365,240



デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ) 事業効果検証シート
(R5年度事業分)

No.	4	担当課	観光振興課観光振興係
-----	---	-----	------------

交付対象事業名	地域連携型持続可能な観光拠点整備事業～八女ドリンクツーリズム創出～				
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出	事業費	計画額(円)	997,781,000	
	②持続可能な観光事業の推進と観光施設の整備		実績額(円)	919,545,899	
事業概要	地域に点在する施設・豊かな自然・そこで生活する人々を連携させることを目的に持続可能な観光拠点(べんがら村)の整備を実施する。今回整備するべんがら村を都市との交流の入り口と位置づけ、八女観光の拠点とするために増設する新棟や屋外スペースでの農産物の直売や観光PRブースを設置することでファミリー層向けの観光客をターゲットとした施設整備とする。また、本施設の特徴であるクラフトビールの醸造、八女茶や日本酒をはじめ多彩な農作物を掛け合わせたドリンクツーリズムを展開することで交流人口の創出を目指す。				
活動内容	利用率が低く水道料の負担が大きく夏季のみの稼働にとどまっていたプールや、浴槽が広く湯量に負担がかかる家族風呂を廃止し、観光客が利用しやすいサウナ(現状の2倍の広さに拡張)や子ども向け浴槽等を大浴場に設置した。直売所については、観光客に八女の良いものや価値のある商品を提供するローカルセレクトショップに改変して新しい顧客獲得につなげた。また、既存の複合施設としての機能をさらに高める改修として、クラフトビールの醸造体験ができる機能追加し、外構整備として、車泊スペース、マルシェ広場の整備を行った。				
主な成果	地域の魅力的なプレーヤーやモノが出会い、新たな商品や体験を開発し提供する場を整備することができた。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R5年度)	実績値(R5年度)	説明
	八女市の年間観光入込客数(人)	1,990,000	2,463,000	1,884,800	コロナが5類に移行したこともあり入込客数は増えてきたが目標値までには至らなかった。
	イベント等における連携事業者数(人)	0	15	210	施設管理者がイベントを計画して幅広い事業者に対して声掛けを行っているため
	施設利用者数(人)	319,922	622,922	365,240	実績値は基準値を超えているが、目標までは至らなかった。
取組の検証	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった			
	課題・改善点	5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」に移行されたことから、観光客については増加してきたが、年間観光入込客数および施設利用者数は目標には届かなかった。イベント等における連携事業者数については、市内だけではなく市外も含め多くの事業者と連携を図ることができた。引き続き本施設を拠点として八女市全体に回遊性を持たせ、連携して集客するため、施設の認知度を高め、集客力を高めることで地域を訪れる観光客の増加を図る必要がある。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	イベント等を実施し多世代や市内外の交流、顧客満足度を上げるための各種取り組みを行う。また、集客力を高めるための広告、宣伝に力を入れ客の増加を図る。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	・目標値をかなり高く設定されているが、少しでも実績値が近づくよう企画やイベントなど検討することが必要と思われる。 ・高齢者にとって使いやすい施設となるよう検討いただきたい。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

地方創生推進交付金 事業効果検証シート
(R5年度事業分)

No.	5	担当課	上陽支所地域振興係
-----	---	-----	-----------

交付対象事業名	「上陽の館」(仮称)整備事業 ～デジタル×ハワイ×上陽 DXを活用した新たな観光戦略基地～				
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出	事業費	計画額(円)	338,266,500	
	②持続可能な観光事業の推進と観光施設の整備		実績額(円)	271,828,315	
事業概要	既存施設を改修し、「デジタル×ハワイ×上陽」をテーマとした魅力的な観光及び地域交流拠点施設を設置することで、インバウンドを含めた八女市の観光消費額・上陽町にかかわる関係人口を増加させるとともに、地域住民の交流促進を図る。また、カフェメニューの素材としての活用やWebでの販売により特産品の販売消費の拡大を図る。				
活動内容	<p>○本館1階 上陽に縁のあるダニエル・建・イノウエ氏を中心とした展示エリアの整備 ハワイや地域の風景等をその場にいるかのように体験できるVRエリアの整備 地域の食材を活用したハワイ風メニューを提供するカフェの整備</p> <p>○本館2階 スタジオ及びイベントスペースとして音響機器や通信環境を備えた施設の整備</p> <p>○ショップ 地域の特産品と中心とした物品や食材の販売スペースの整備及びECサイトの構築 石橋の展示エリア整備</p>				
主な成果	<p>これまで上陽地区の観光の拠点であった既存施設を、上陽に縁のあるダニエル・建・イノウエ氏を顕彰する展示を中心とし、その出身地であるハワイと映像や音響を駆使したデジタル技術を上陽地区の風景や特産物等の資源と掛け合わせ、八女市上陽地区観光交流施設「ダニエルイノウエミュージアム」として改修した。</p> <p>○本館1階 ダニエル・建・イノウエ氏の経歴や功績を紹介する年表やパネル、講演などの記録映像を視聴出来るプロジェクターやモニター機器を設置。また、ダニエル・建・イノウエインスティテュートから提供を受けた資料や実際に着用された衣服等を展示するエリアを整備した。 ハワイの風景や石橋・茶畑といった地域の風景、ダニエル氏の講演映像等のコンテンツを作成、プロジェクターにより3面に投影し没入感のあるVR体験エリアを整備した。 上陽産の豚や地域の野菜、八女茶を使ったメニューを提供するカフェを整備、飲食スペースにもダニエル氏の格言を掲示した。</p> <p>○本館2階 フラダンスやヨガ教室として活用できるよう壁一面の大型鏡や音響機器を備えると併し、オンラインでの交流や会議にも使用するためにプロジェクターやスクリーン等の映像・通信機器を設置したスタジオ・イベントスペースを整備した。</p> <p>○ショップ ガラス張りの壁面を活かし周辺の景色が楽しめるように商品棚を低くし、特産品や地域で作られた食材を販売するショップを整備した。また、収益力を向上させるためオンライン販売ができるECサイトを構築した。 上陽地区に残る石橋をパネルやモニターによる動画で紹介する展示エリアを整備した。また、モニターでは石橋に加えて新商品や季節のイベント等を紹介できる機能も備えた。 上記に加えて、本施設の訪問者数や属性を計ることができる設備や、八女市内の主要観光拠点との移動等の相関関係が分析できる設備を整備した。</p>				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R5年度)	実績値(R5年度)	説明
	上陽地区の観光消費額(百万円)	455	455	61	観光施設改修、民間施設都合による来訪者減少に伴う減額
	上陽の館(旧ほたると石橋の館)入込客数(千人)	21.8	21.8	15	施設改修工事(8月～)による減少
	観光案内所外国人訪問者数(人)	12	12	180	コロナ沈静化によるインバウンド客の増加
作成したメタバース(Webサイト)利用者数(人) (参考指標)作成した情報コンテンツ閲覧者数	0	0	0	メタバース空間構築を取り止めたため指標を変更	
取組の検証	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった			
	課題・改善点	開館から20年以上が経過し、観光需要の多様化や展示内容の硬直化を主な要因として来館者の減少が続いていた既存施設を改修し、令和6年度から新たなテーマを基に運営が始まる中で、集客力向上のためにインバウンド客を含めた幅広い地域・世代へのPRが重要である。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	来館者の需要に加え今回の改修で整備したデータ収集設備の情報を活用し、八女市全体の観光客の周遊状況も加味した観光需要への対応を推進し、観光交流拠点としての機能を強化していく。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	・値段設定が少し高額であるため、今後地元向けに割安感のある対策が必要ではないか。 ・ダニエル・イノウエ氏での集客は困難な部分があると思われるので、国際交流のイベントや川遊びと組み合わせた企画など検討すべきではないか。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

No. 5 地方創生拠点整備タイプ (上陽支所地域振興係)

「上陽の館」(仮称)整備事業 ~デジタル×ハワイ×上陽 DXを活用した新たな観光戦略基地~ 【福岡県・八女市】

事業の概要

既存施設を改修し、「デジタル×ハワイ×上陽」をテーマとした魅力的な観光及び地域交流拠点施設を設置することで、インバウンドを含めた八女市の観光消費額・上陽町にかかわる関係人口を増加させるとともに、地域住民の交流促進を図る。また、カフェメニューの素材としての活用やWebでの販売により特産品の販売消費の拡大を図る。

活動内容・成果

上陽に縁のあるダニエル・建・イノウエ氏の展示を中心とし、その出身地であるハワイと映像や音響を駆使したデジタル技術を上陽地区の風景や特産物等の資源と掛け合わせ、八女市上陽地区観光交流施設「ダニエル イノウエミュージアム」として改修した。

・本館1階 ダニエル・建・イノウエ氏展示エリア、ハワイや地域の風景を映すVR体験エリア、地域の特産品を使用したメニューを提供するカフェ。

・本館2階 大型鏡や映像・音響機器を備えたスタジオ・イベントスペース。

・ショップ 特産品や地域の食材の販売スペース、ECサイトの構築、石橋展示エリア。

ダニエルイノウエミュージアム(外観)



VR体験エリア(ハワイの風景)



スタジオ・イベントスペース



ダニエルK. イノウエ常設展示室



デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ) 事業効果検証シート
(R5年度事業分)

No.	6	担当課	立花支所地域振興係
-----	---	-----	-----------

交付対象事業名	道の駅たちばな食のスペース(仮称)整備計画				
総合戦略での位置付け	1. 「ひと」と「しごと」をつなぐ	事業費	計画額(円)	280,452,000	
	②生産性の向上		実績額(円)	219,769,000	
事業概要	観光振興と農林業の振興および地場産品の消費拡大を図るとともに、地域のにぎわいの拠点として地域経済の活性化と雇用機会の創出を図り、人口流出に歯止めをかけることを目的とする。				
活動内容	農産加工施設や研修施設、大人数で食事・休憩ができる屋内型の休憩施設等が一体となった食のスペースを整備・運営する。				
主な成果	上記整備を行ったことにより、食のスペースを「お食事処招竹梅」として運営することができた。招竹梅では、5つのテナントが入り、地元産の食材を使った料理の提供を可能としたほか、加工場の活用により商品の開発も行っており、雇用の創出にもつながっている。これら施設のさらなる活用により今後の集客力に期待が持てる。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R5年度)	実績値(R5年度)	説明
	道の駅たちばな(直売所、食のスペース)販売額(単位:千円)	528,000	528,000	709,849	直売所 616,928千円 食のスペース 92,920千円
	加工品開発品目数(単位:品)	0	50	100	地域資源を活用した商品開発
	開発加工品販売額(単位:千円)	0	5,000	9,308	商品情報の提供、組み合わせ商品の工夫、贈答品や外部販売の開発 など
取組の検証	事業効果	②本事業は地方創生に相当程度効果があった			
	課題・改善点	食のスペースでは、売上・客数ともに増加傾向だが、各テナントでも新メニュー、季節メニューの開発などを行い、現状に妥協しない顧客ニーズの変化に対応できる取り組みを進めていくことが課題である。また、認知度を広めるためにもSNS等を使ったPRを進めて幅広い世代に知ってもらう事も必要とされる。加工場では、さらなる拡大の為に外部販売の確保が足りないのが現状。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	直売所、加工所、飲食店の連携による相互作用の向上に向けた取組を進め、固定客の増加を図る。すべての施設で継続した店舗展開ができるように、加工品の開発を目指していきたい。また、集客力を高めるための広告、宣伝に力を入れ客の増加を図っていききたい。 今後は、外部への販売も増加させ、雇用も促進したい。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	・テナントが埋まったことなどにより直売所、食のスペース共に販売額が上昇している。アルコールを出している道の駅は少ないと思われる、安全には留意しながら今後も取組を継続いただきたい。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

道の駅たちばな食のスペース(仮称)整備計画【福岡県・八女市】

事業の概要

観光振興と農林業の振興および地場産品の消費拡大を図るとともに、地域のにぎわいの拠点として地域経済の活性化と雇用機会の創出を図り、人口流出に歯止めをかけることを目的とし、農産加工施設や研修施設、大人数で食事・休憩が出来る屋内型の休憩施設等が一体となった道の駅たちばな食のスペース(仮称)を整備する。

事業の目標

本整備計画により、令和2年8月8日から「お食事処 招竹梅」としてオープンすることができた。1階飲食スペースでは、直売所で販売している食材等を使った料理の提供を行っている。また、2階の加工スペースでも地元食材を使った商品の開発・販売を行っている。これらにより、地元の食材を加工し、提供するサイクルを作っている。

補助事業の重要業績評価指標については、当初計画を超えた成果が出ている。また、指標外ではあるが来場者の増加、雇用の創出にも寄与している。

昨年の課題であった空きテナントも解消され、加工場の活用により商品開発も行っており、集客につながっている。今後もすべての施設の連携による取り組みを継続し、道の駅の更なる魅力アップにつなげていきたい。



▲招竹梅 外観



▲2階 加工場



▲1階 飲食スペース



▲特産物加工品(ピクルス、ドレッシング)

笠原地区木育及びキャンプ施設整備計画【福岡県・八女市】

事業の概要

「木育」の機能を持つキャンプ場を整備し、地域住民と連携し地域全体で観光の振興と木育の推進を図り、キャンプ愛好家はもとより子育て世代に自然体験の場を提供し、交流人口の増による地域のにぎわいを創出する。また、「薪」に着目し、地域内に豊富にある森林資源に付加価値をつけ、施設利用者に地域農産物とあわせて販売することで地場産品の消費拡大を図り経済の活性化を促し、さらには、特色ある施設を運営することで地域の魅力を発信し、施設・森林管理や木育スタッフなど雇用機会の創出も図るなど関係人口の創出・拡大、将来的には移住、定住につながる事業展開を行うことにより、八女ファンを増やしていき都市部から人を呼び込み人口の増加を目指す。

事業の目標

- 地域住民と来訪者の交流拠点とすることで交流人口の増加、経済の活性化、雇用の創出及び移住・定住を推進し、将来にわたって自立性を持ったコミュニティの運営ができる地域となることを目指す。
- 周辺の森林を含め自然体験の場を提供し、親子ふれあいの場、森林環境教育の場としても利活用していく。
- 物販、八女茶カフェを地場産品の販売拠点として利活用していく。
- 子どもから高齢者まで多世代間交流の拠点

事業の成果

- 令和3年4月オープン以来、目標を上回る来訪者があり、交流人口の増や地場産品の消費拡大など地域の活性化が図られている。また、Uターン者や地元住民の雇用により雇用機会の創出が図られた。

KPI	R5目標値	R5実績値
施設入込客数	11,900人	17,647人
施設の利用料収入額	13,100千円	51,365千円
市の延べ宿泊者数	135千人	130千人



デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ) 事業効果検証シート
(R5年度事業分)

No.	7
-----	---

担当課	黒木支所地域振興係
-----	-----------

交付対象事業名	笠原地区木育及びキャンプ施設整備計画				
総合戦略での位置付け	2-2 交流の拡大と関係人口の創出	事業費	計画額(円)	384,135,000	
	②持続可能な観光事業の推進と観光施設の整備		実績額(円)	357,494,000	
事業概要	<p>「木育」の機能を持つキャンプ場を整備し、地域住民と連携し地域全体で観光の振興と木育の推進を図り、キャンプ愛好家はもとより子育て世代に自然体験の場を提供し、交流人口の増による地域のにぎわいを創出する。</p> <p>また、「薪」に着目し、地域内に豊富にある森林資源に付加価値をつけ、施設利用者に地域農産物とあわせて販売することで地場産品の消費拡大を図り経済の活性化を促し、さらには、特色ある施設を運営することで地域の魅力を発信し、施設・森林管理や木育スタッフなど雇用機会の創出も図るなど関係人口の創出・拡大、将来的には移住、定住につながる事業展開を行うことにより、八女ファンを増やしていき都市部から人を呼び込み人口の増加を目指す。</p>				
活動内容	<p>山間地という森林環境の中に、木のぬくもりに直接触れることができる木のおもちゃを備える木育施設兼母屋、八女産材を使用した宿泊施設5棟、オートキャンプサイト18区画、炊事場・シャワー・トイレのサンタリー棟、母屋の中には地域農産物や薪を販売する物販スペース、八女茶発祥の地としての地の利を活かした八女茶カフェを整備した。</p>				
主な成果	<p>地域住民と来訪者の交流拠点とすることで交流人口の増加、経済の活性化、雇用の創出及び移住・定住を推進し、将来にわたって自立性を持ったコミュニティの運営ができる地域となることを目指す。</p> <p>周辺の森林を含め自然体験の場を提供し、親子ふれあいの場、森林環境教育の場としても活用していく。</p> <p>また、物販、八女茶カフェを地場産品の販売拠点として活用していく。あわせて、子どもから高齢者まで多世代間交流の拠点としての役割も期待できる。</p>				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R5年度)	実績値(R5年度)	説明
	施設入込客数(人)	0	11,900	17,647	木育体験者数、各サイト及びキャンピング、コテージ利用者数。リピーターの口コミ等による当該施設への人気が続いているため。
	施設の利用料収入額(千円)	0	13,100	51,365	サイト売上高。人気の高さと併せ、レンタル品の単価を上げたため。
	市の延べ宿泊者数(千人)	109	135	130	宿泊支援事業が終了したため。
取組の検証	事業効果	②本事業は地方創生に相当程度効果があった			
	課題・改善点	施設整備まで度重なる地域との話し合いを行い、地元雇用を基本として運営しているが、地域の高齢化と若年者不足のより円滑な事業運営のための人材確保が課題となっている。また、さらなる地域への経済効果の波及のため、地場産品の販売や木育における人的支援および原材料の供給等についての体制整備を推進する必要がある。取り組みが遅れていた木育メニューの充実化については、新型コロナウイルス感染症の5類移行により木育ひろばに木のおもちゃの展示ができるようになり木育に貢献している。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	顧客満足度を上げるための各種取り組みを行い、リピーターゲストの定着を図るとともに、カフェや木育メニューの充実を図ることはもとより、今後は遊休農地を活用し施設利用者を対象とした農業体験プランを検討し新規来訪者の増加を図る。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	・稼働率が高く、福岡都市圏からの誘客として大きな効果がある、有効な事業である。 ・今後木育の取組みもさらに推進いただきたい。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない